
心の宝石

一村 龍哉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

心の宝石

【Nコード】

N3881P

【作者名】

一村 龍哉

【あらすじ】

6人の強盗団、彼らの笑いあり涙ありのストーリー

設定

TEAM-K (TEAM-Kとは宝石だけをターゲットとした強盗グループ)

笹先廉斗／23／178／グループのリーダー格／実行犯／弟思い／

三木礼二／23／175／グループ1の力持ち／実行犯／おっちょこちよい／

御神真雪／20／169／グループ1の詐欺師／実行犯／

澤田涼／24／175／グループの頭脳／待機／作戦を立てる／廉斗とは幼馴染の同級生／3人兄弟の末っ子／警察官一家の出／

笹先奏／13／131／グループの天才ハッカー／待機／廉斗の弟／兄の仕事を陰ながら支えている／

高見直人／22／170／グループ1の走り屋／待機／元暴走族総長／何故か涼に忠実／

警察関係者

赤川重行／38／警部／

品川拓郎／26／警部補／

澤田玲／27／警視／涼の姉／弟の事をよく心配している／

澤田半蔵／54／警視監／涼の父／仕事熱心／志は高い／親ばか

注…設定は作者の勝手な判断により書き換えられますご了承ください
さいw

アクアマリン？

館内に響く非常ベル、その小裏口から飛び出してきた3人組の青年、正面の駐車場に止めてある黒い車に一斉の乗り込む。

『お帰り。遅かったじゃんw』

車の助手席にいた一人の少年が乗り込んできた3人に話しかける。

『しかたねえだろ、奏。』

少年：笹先 奏はさらに質問をぶつける。

『何が会ったのw？』

まだ、かなり幼い顔立ちの奏、

『礼二のやつが裏口のかぎ落としやがったんだから。』

少しいらだった声で青年：笹先廉人が後ろの青年を睨みつぶやく。

青年：三木礼二は、反論するように言い返す。

『あれは、真雪が焦らせるから：』

『は、俺のせいだよ！！』

青年C：御神真雪は、驚いた表情で礼二に反発する。

『お前ら喧嘩してる場合じゃないだろ。高見、早く車を出してくれ。』

』

運転席の後ろに座っていた青年：澤田 涼が2人の言い合いを止めて運転席に座っていた男に指示を出す。

『了解、』

運転手：高見 直人は、一気にアクセルを踏み車を走らせる。いきなりの発車で、車に乗っていたものの全員がバランスを失った。

ゆうに90Kmは出ているであろう車。

それを追いかけて十数台の警察車両がついてくる。

『こいつらどうするんだ、』

バックミラー越しに警察車両を確認した直人は、助手席に乗る奏に聞く。

『次の交差点を右に曲がって。』

カタカタとパソコンをいじる奏。

直人が前方の交差点を確認すると度の信号も赤になっている。

『いいから突っ切って。』

強気な声で指示する奏。

『了解、』

直人は頷きさらにアクセルを踏み込み交差点を右に曲がった。

それと同時に奏ではパソコンのエンターキーを強く推した。するとさっきまで赤だった信号がいつ気にも青に変わってしまった。数十台の車が一気に動き出した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3881p/>

心の宝石

2010年12月14日17時13分発行